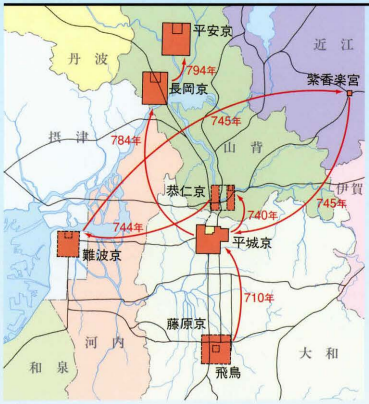
世界文化遺産

特別史跡

平城宮跡

奈良文化財研究所

平城京と平城宮



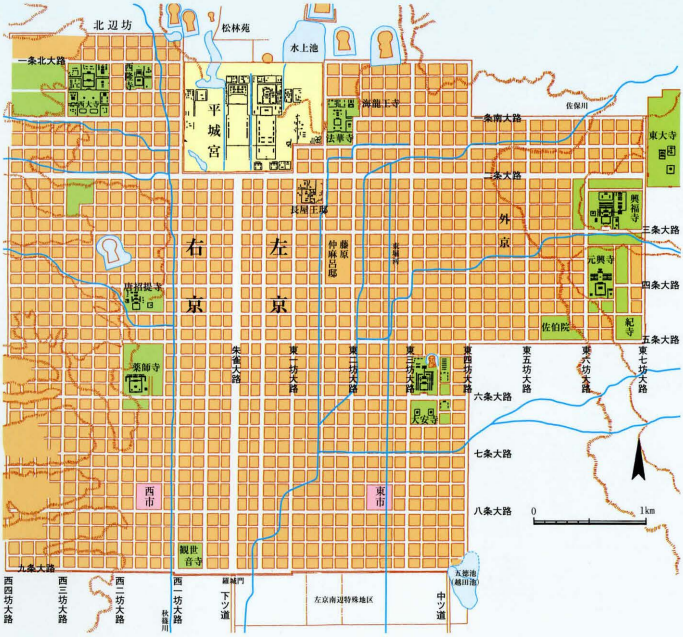
転々とする都

平城京

和銅3年（710）、奈良盆地の北端に造られた平城京が新しい都と定められました。元明天皇が律令制にもとづいた政治をおこなう中心地として、飛鳥に近い藤原京から都を移したのです。中国・唐の長安城などを模範とした都をつくることは、当時の東アジアの中で国の威厳を示す意味もありました。

その後、聖武天皇は740年から745年まで、都を転々と移しますが、745年には再び平城京を都としました。そして、長岡京に都が移る784年までのあいだ、奈良の地が都として栄えたのです。この時期を奈良時代といいます。

平城京のメインストリートは、京の南門である羅城門から北にまっすぐにのびる幅約75mの朱雀大路です。朱雀大路をはさんで西側を右京、東側を左京といいます。左京には北の方で東にさらに張り出しがありました。平城京は大小の直線道路によって、碁盤の目のように整然と区画された宅地にわけられています。平城京の住民は4～5万人とも10万人ともいわれますが、天皇、皇族や貴族はごく少数の百数十人程度で、大多数は下級役人や一般庶民たちでした。



平城京の条坊

平城宮

平城京・朱雀大路の北端には朱雀門がそびえていました。朱雀門をくぐるとほぼ1km四方の広がりをもつ平城宮です。平城宮の周囲には大垣がめぐり、朱雀門をはじめ12の門がありました。

平城宮の内部にはいくつかの区画があります。政治や国家的儀式の場である大極殿・朝堂院、天皇の住まいである内裏、役所の日常的業務をおこなう曹司、宴会をおこなう庭園などです。そのなかでも政治・儀式の場は、都が一時離れた時期を境にして、奈良時代の前半と後半で大きな変化がありました。奈良時代前半に、朱雀門の真北にあった大極殿（通称、第一次大極殿）が、奈良時代後半になると東側の区画で新たに建てられたのです(通称、第二次大極殿)。これに対して、内裏は、奈良時代を通じて同じ場所にありました。

これらの事実は、50年以上におよぶ発掘調査によってわかってきたことです。このうち、ほぼ正方形と考えられてきた平城宮が、じつは東部に張り出し部分をもつことがわかったことや、その隅に奈良時代の庭園を発見したことなどは、発掘調査による大きな成果のひとつといえるでしょう。

奈良時代前半(上) と後半 (下) の平城宮

復原した朱雀門　朱雀大路に向かって開く平城宮の正門。元日や外国使節の送迎の際に儀式がおこなわれたほか、都の男女が集まって恋の歌をかけ合うのを天皇が見るというイベントもここでおこなわれました。

平城宮の内側をのぞいてみると

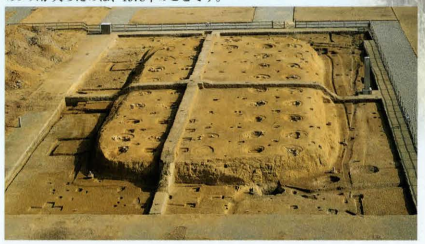
第一次大極殿院・東楼の遺構　掘立柱と礎石を混用する特異な建物跡で、柱穴も大きく、楼閣建築と考えています。平城宮最大の柱（径約75cm）が出土しました。

兵部省の整備　武官人事を担当していた役所。現代の道路が中央を横切っていますが、建物の柱や壁を、約1mほどたちあげる半立体復原という手法を用いて整備しました。

復原した東院庭園　天皇や貴族の宴遊の場を再現。建物は遺構にもとづいて復原し、庭園は石組など遺構そのものを見せながら整備しています。

発掘した東院庭園　平城宮東南隅で発掘された奈良時代の庭園跡。池周囲の建物や橋のほか、池底の玉石敷、高さ1.2mの立石をおく豪快な築山石組などがみつかりました。

第二次大極殿の遺構　「ダイゴクの芝」とよばれて土壇が残っていたため、明治以降、大極殿跡と考えられてきました。ここに発掘のメスが入ったのは、1978年のことです。



第二次大極殿と内裏の整備　第二次大極殿とその周辺にある礎石建物は基壇を復原、内裏の掘立柱建物は、円柱状に刈りあげたツゲの植木で柱を表示しています。

造酒司の井戸　天皇や役人のための酒を造る役所にあった井戸で、その上に六角形の上屋が建ちます。1つの柱根と5つの柱穴がわかりますか？

平城宮略年表

694年	（持統8）	藤原宮に都を移す。
701年	（大宝1）	大宝律令を制定する。
707年	（慶雲4）	元明天皇（女帝）が即位する。
708年	（和銅1）	和同開珍を発行する。
710年	（和銅3）	平城京に都を移す。
715年	（霊亀1）	元正天皇（女帝）が即位する。
724年	（神亀1）	聖武天皇が即位する。
729年	（天平1）	長屋王の変。
740年	（天平12）	恭仁京に都を移す。
742年	（天平14）	紫香楽宮をつくる。
744年	（天平16）	難波宮を都とする。
745年	（天平17）	紫香楽宮を都とする。平城京に都を戻す。
749年	（天平勝宝1）	孝謙天皇（女帝）が即位する。
752年	（天平勝宝4）	東大寺で大仏の開眼供養が行われる。
758年	（天平宝字2）	淳仁天皇が即位する。
764年	（天平宝字8）	藤原仲麻呂の乱。淳仁天皇に代わり孝謙上皇が再び称徳天皇（女帝）として即位する。
770年	（宝亀1）	天智天皇の孫の光仁天皇が即位する。
781年	（天応1）	桓武天皇が即位する。
784年	（延暦3）	長岡京に都を移す。
810年	（弘仁1）	平城上皇、平城遷都を計画するが失敗（薬子の変）。
864年	（貞観6）	このころ、平城旧京の道路は田畑となる。

第一次大極殿院1/100模型（1993年作成）
大極殿は天皇の即位、元日の朝賀など国家的儀式のときに天皇の座がおかれる建物です。回廊で囲まれた正面には重層の閤門がひらき、その両側には東楼・西楼とよんでいる楼閣があったと考えています。臣下はさらにその前にある広場に立ち並んで天皇を拝したのです。

※本文中の■は、平城京西隆寺跡から出土した銀製帯先金具をモチーフとしたものです（縮尺約1/4）。

出土品が語る人びとの営み

平城宮の建設

平城宮には数多くの建物がありましたが、造営のためには莫大な資材が必要でした。発掘によって瓦、木材、石材など、建設に使われたものがたくさん見つかっています。こうした出土品は、建物の姿を推定する手がかりになるだけでなく、どのように資材を調達したかを考える材料にもなるのです。

鬼瓦　屋根の棟（大棟・降棟）の先端をおおう瓦で、魔よけの意味が込められていました。獣面のほか瓶鳳の文様をかたどったものもあります。

人びとの生活

天皇をはじめ、貴族や下級役人が都で暮らしていくためには、日々の生活に必要な物資を地方から税などとして運んでこなければなりませんでした。出土品の中には、土器などのように列島の各地からもってきたことがわかるものもあります。出土する荷札の木簡は、どの地方から何が都に運ばれたのかを知るかっこうの手がかりとなるのです。

役人の仕事机　筆、墨、硯、水差しのほか、木簡の文字を訂正するときに表面を削るための刀子（ナイフ）なども使われていました。

食器と台所用品　箸やさじのほか、わんや皿などの食器、壺・甕などの貯蔵用具、杓子などの厨事用具が出土しています。

①伊豆国から運ばれたカツオの荷札
②長屋王の邸宅に運ばれたアワビの荷札
③造酒司が職員に対して出した呼び出し状

さまざまな木簡

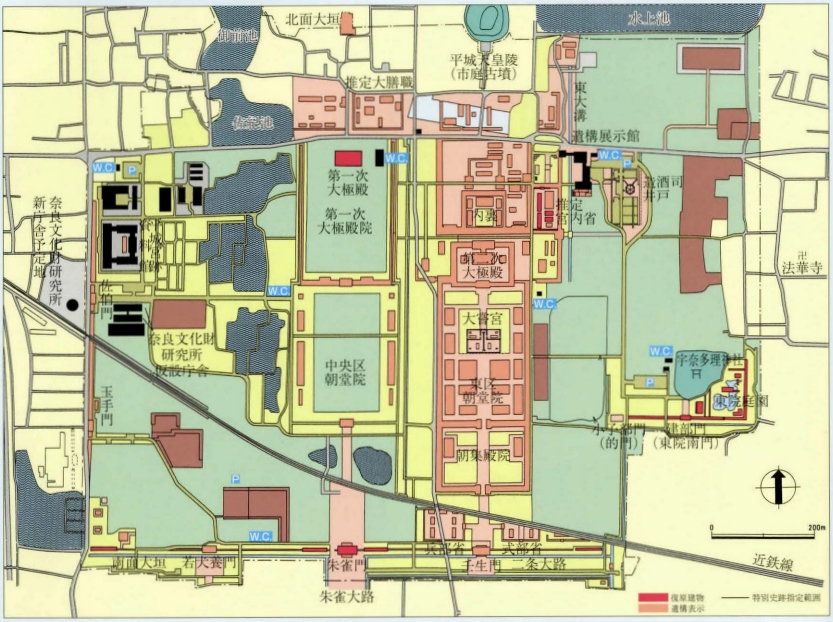
役人の仕事

律令制のもとでは、太政官以下の多くの役所がありました。役所では、現代と同様に書類によって日々の事務が処理されました。当時は紙だけでなく、木の札（木簡）に書類や帳簿を書きつけることも多く、発掘調査の際にこうした木簡がたくさん出土します。

※イラストは早川和子氏による

平城宮跡資料館
発掘で出土したさまざまな遺物や、建物の復原模型を展示しながら、平城宮についてわかりやすく説明しています。

遺構展示館
発掘で見つかった遺構をそのまま見ることができるほか、第二次大極殿の屋根や内裏の復原模型を展示しています。



世界文化遺産 特別史跡 平城宮跡

施設案内

平城宮跡資料館	近鉄大和西大寺駅から徒歩10分
遺構展示館	JR奈良駅・近鉄奈良駅から近鉄大和西大寺駅行、または近鉄大和西大寺駅からJR奈良駅方面行バスにて、「平城宮跡」下車すぐ。
東院庭園	「平城宮跡」下車、徒歩10分。
朱雀門	近鉄大和西大寺駅から徒歩20分。「平城宮跡」下車、徒歩20分。または JR奈良駅・近鉄奈良駅方面から「二条大路南四丁目」下車、徒歩３分。
第一次大極殿	近鉄大和西大寺駅から徒歩20分 JR奈良駅・近鉄奈良駅から近鉄大和西大寺駅行、または近鉄大和西大寺駅からJR奈良駅方面行バスにて、「佐紀町」下車すぐ。

各施設とも
- 入場無料
- 月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日）、年末年始休館。
- 開館時間　9：00～16：30（入場は16：00まで）

世界文化遺産 特別史跡 平城宮跡

〒630-8577　奈良市佐紀町247番１
独立行政法人 国立文化財機構　奈良文化財研究所
TEL 0742-30-6753　FAX 0742-30-6750
インターネットホームページ　http://www.nabunken.jp